

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

「税金の大切さ」

大玉村立大玉中学校

3年 のうち 野内 ありさ 亜利紗

「税金なんて必要ない。国民の負担になるだけだ。」

と言う人を、わたしは何度も見たことがあります。わたしは、その言葉を聞く度に、疑問に思います。もし現在の日本に税金がなかったら、わたしたちの生活はどのように変わってしまうのか、よく考えてみてほしいです。

まず、税金はたくさんのもにに使われています。例えば、道路の建設や修理、社会保険、ゴミの処理費や教育費など私たちの身近なものにも使われています。

特に、学生であるわたしたちのために使われる税金は、中学校では年間一人当たり約100万6千円です。もし税金がなかったら、教科書や机、椅子、学校で使う教材など、全て個人でお金を負担することになってしまいます。

また、わたしの住んでいる村では、18歳まで医療費を村が負担しています。そのおかげで、わたしたちの負担は軽くなり、具合が悪くなったら、病院へ行って薬をもらうことができます。もし、医療費が自己負担だったら、具合が悪くても病院に行けなかったり、治療費が払えずに結局治療を受けることができなくなったりすることが起こってしまいます。

それから、道路の建設や整備も、税金がなかったら行うことができません。また、わたしたちの身の周りがあるたくさんの公共施設も、税金があるから建設や運営ができるのです。

このように、税金は、わたしたちの身の回りのものにたくさん使われています。税金は国民の負担になるから必要ないと思っている人たちには、税金によって、今のわたしたちの生活はどれだけ助けられているのかということをよく考えてほしいです。そして、もし税金がなければ、個人の負担が大きく、道路や公共施設の建設や整備も行うことが

できません。

だから、税金は今のわたしたちの生活には欠かせないものなのです。税金があるからこそ、現在の生活があるのだと思います。

税金は、国民みんなのために使われています。

国民ひとりひとりが、税金の使われ方や税金の必要さを理解して、税を負担したり納めたりすることで、現在のわたしたちの生活が支えられているのだと思います。

みんなのために使われる税金を納めることについての大切さを、一人ひとりがよく考えてほしいです。